2020 年度 J-STAGE ジャーナルコンサルティング

報告書 ～DOAJ 収載に向けたジャーナル改善～

2021/5

国立研究開発法人科学技術振興機構
情報基盤事業部

目次

1. はじめに.....2
2. 2020 年度ジャーナルコンサルティング実施概要.....3
2.1 ジャーナルコンサルティングの目的および 2020 年度のテーマ.....3
2.2 参加対象.....3
2.3 実施体制およびスケジュール概要.....3
2.4 取り組みの成果概要.....4
3. DOAJ 申請への課題と改善に向けた活動事例.....5
3.1 ジャーナル診断.....5
3.2 改善活動.....8
3.3 再診断および DOAJ 申請.....10
3.4 収載完了後.....10
4. まとめ.....11
5. 参考資料.....11

1. はじめに

本文書は、J-STAGE が 2020 年度に実施したジャーナルコンサルティングの内容についてまとめた報告書です。オープンアクセス（以下、OA）（※1）を実現しているジャーナルが DOAJ（※2）への収載を目指す上で留意すべきこと等をまとめていますので、適宜お役立てください。

なお、購読誌等の非 OA 誌が OA 誌へ移行することについては本文書では触れません。OA への移行に関する情報は『J-STAGE 登載ジャーナルのためのオープンアクセスガイド』（※3）をご覧ください。

※1 オープンアクセス…J-STAGE では、国際的な OA の定義に基づき、以下の条件を満たす刊行物を「オープンアクセス誌」としています。

- 公衆に開かれたインターネット上において無料で本文にアクセスできる
- 二次利用の範囲や条件が CC ライセンス等により明示されている

※2 DOAJ (Directory of Open Access Journals)…国際的な基準を満たす高品質の OA ジャーナル及びその記事のメタデータを、言語や地域、分野を問わず収載するオンライン・ディレクトリ・サービス。収載誌の認知度、アクセシビリティ、評判、利用を高めることを目的として、Infrastructure Services for Open Access (IS4OA)により運営されています。

※3 『J-STAGE 登載ジャーナルのためのオープンアクセスガイド』
https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub_openAccessGuide.pdf
注：一部、DOAJ に関する情報が古い場合があります

2. 2020 年度ジャーナルコンサルティング実施概要

2.1 ジャーナルコンサルティングの目的および 2020 年度のテーマ

J-STAGE は、登載誌の質を向上し国際発信力を強化することを目的として、学術出版を専門とするコンサルタントによるジャーナルの改善支援「ジャーナルコンサルティング」を 2017 年度より実施している。

2019 年度までのジャーナルコンサルティングを通じて、中長期的な達成目標はジャーナル毎に様々である一方、短期的には全てのジャーナルにおいて ITA (Instruction to Authors、投稿規程)等のドキュメントの改善や二次利用条件の明確化等、ジャーナルの基盤となる部分の整備が必要であることが明らかになった。また、基盤整備の次のステップに係る取り組みとして、一定の基準のもとにジャーナルの選定を行っているデータベースへの収載は、信頼に足るジャーナルであることを示す有効な手段であると考えられた。

J-STAGE では OA を推進していることから、2020 年度は OA 誌のホワイトリストとして国際的に認知されている DOAJ[1]への収載を全参加誌の統一目標に定め、コンサルティングを実施した。

2.2 参加対象

以下の条件を満たす J-STAGE 登載誌を参加対象とし、募集案内を行った。

- J-STAGE で定期的に記事を公開している（休刊・廃刊していない）
- OA（無料アクセス＋CC ライセンスの表示による二次利用範囲・条件の規定）を実現している、もしくは、2019 年度ジャーナルコンサルティングミニセミナー[2]を受講済みで OA 誌への移行の意志がある
- DOI のランディング先を J-STAGE としている

「CC ライセンスの表示」については、書誌画面へ CC ライセンスを表示していることを条件に、該当する資料を機械的に抽出した。また、記事の言語種別は不問とした。

2.3 実施体制およびスケジュール概要

英文誌のコンサルティングは、JST と契約した海外のコンサルティング会社である INLEXIO が参加ジャーナルの担当者と直接やり取りを行い、改善活動を進めた。和文誌の

---

[1] OA 誌のホワイトリストとして国際的に認知されている DOAJ：OA の進展とともに、論文掲載料目当ての低品質かつ悪質性の高い OA 誌、いわゆる「ハゲタカジャーナル」の増加が世界的に問題になっている。DOAJ はそうしたハゲタカジャーナルでない健全なジャーナルをまとめたリストとして、多くの大学や研究機関等において論文の投稿先を選択する際に活用を推奨されている。

[2] ジャーナルコンサルティングミニセミナー：ジャーナルコンサルティングから派生して、J-STAGE の推進する OA ならびにジャーナルの質向上に関する基礎的な事項の周知を目的とし、コンサルティングに不参加の発行機関を対象としたセミナーを 2019 年度より開催している。

コンサルティングは、INLEXIO が英文誌に提供したコンテンツを JST が和訳した上で提供し、参加ジャーナルの担当者は JST とやり取りを行い、改善活動を進めた。具体的な実施スケジュールは図 1 のとおり。

凡例：■…JST, ■…コンサルティング参加誌、■…INLEXIO

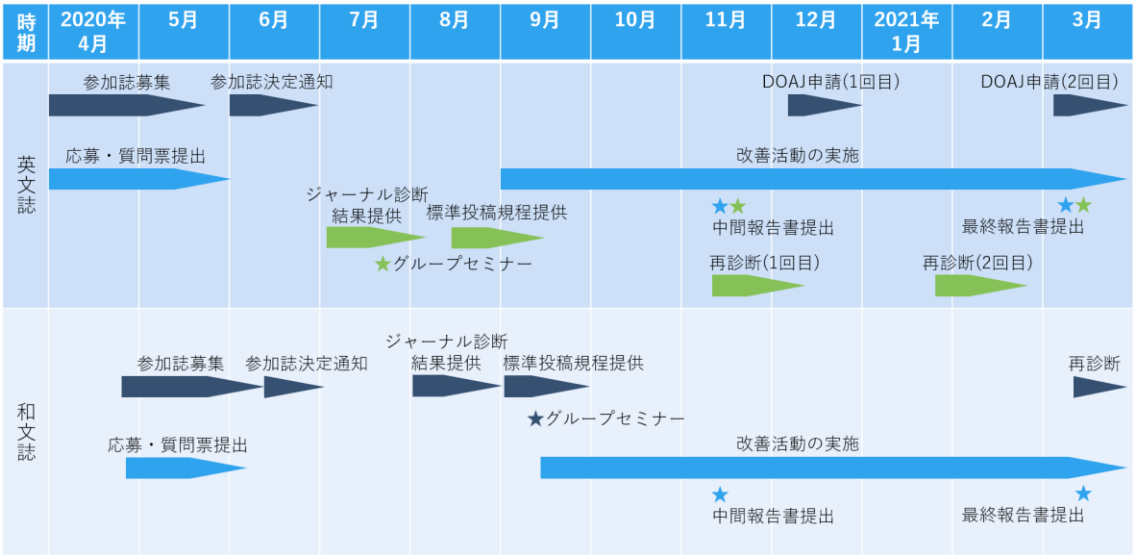

図 1 ジャーナルコンサルティング実施スケジュール

2.4 取り組みの成果概要

2020 年 12 月に英文誌 3 誌について DOAJ 申請を行い、1 月に 3 誌すべて収載が決定した。また、2021 年 3 月に英文誌 5 誌について DOAJ 申請を行い、同月に 2 誌、4 月に 3 誌の収載が決定した。

残りのジャーナルについては、2021 年 5 月に 7 誌、6 月以降に 4 誌が申請を予定している。また、和文誌 1 誌は学会内における当該ジャーナルの立ち位置を見直すこととし、DOAJ 申請を辞退した。

3. DOAJ 申請への課題と改善に向けた活動事例

3.1 ジャーナル診断

DOAJ 申請を目指す上で改善すべき項目を洗い出すため、参加誌の現状を分析するための「ジャーナル診断」を行った。コンサルティングへの参加を希望するジャーナルに対し、INLEXIO の作成した質問票への事前回答・提出を求めた。質問票の主な内容は図 2 のとおり。

質問票：ジャーナル診断の実施にあたり、参加誌に以下の情報提供を求めた。

ジャーナルの基本情報
- 発行機関名
- ジャーナル名、略称
- ISSN
- ジャーナルのwebサイトURL
- Aims & Scope
- 取り扱う原稿種別（原著論文/レビュー/症例報告 等）
- 各種データベース収載状況（Web of Science/Scopus 等）

ビジネスモデル
- 出版モデル（ゴールドOA/プラチナOA/ブロンズOA/購読型）
- 著作権の所在（著者/発行機関）
- 主な収入源
- 論文投稿から出版までに著者が負担する費用（投稿料/掲載料/ページチャージ 等）
- ウェイバーポリシーの有無
- セルフアーカイビングポリシーの有無
- エンバーゴの有無および期間

ジャーナルの状況と展望
- 同じ発行機関から出版されている他のジャーナル
- 主な競合誌
- 想定する読者層

編集モデル
- 編集委員会の構成
- 編集ワークフロー

制作フォーマット
- 年間発行記事数/号数
- 公開形態（PDF/HTML/冊子体）
- 冊子体を発行している場合、発行を継続するかどうか
- ダークアーカイブ利用の有無
- 機械可読なライセンスを書誌情報に埋め込んでいるか
- ファンディング情報をメタデータとして登録しているか
- 永続的識別子の利用状況（DOI/ORCID 等）

投稿および査読のプロセス
- 原稿追跡の方法（投稿審査システム/メール 等）
- 1年間の平均投稿数
- 海外からの投稿の割合
- 倫理規定や利益相反等各種ポリシーの公開状況
- 査読の種類（シングルブラインド/ダブルブラインド 等）
- 査読方法に関する情報の公開状況
- 論文受理の基準（新規性/当該分野へのインパクト 等）
- 査読者ガイドラインの提供の有無
- 投稿から最初の意思決定までにかかる日数
- 原稿採択から出版までにかかる日数

図 2 質問票の主な内容

質問票への回答に加え、実際のジャーナルの公開状況やウェブサイトを確認し、以下の 1)～5)の観点（図 3～6）に基づいた診断結果を参加誌へ提供した。項目は「記載が十分である」「記載の細かい修正が必要」「記載の大幅な修正が必要」「記載が欠如している」「該当無し（考慮不要な分野である、等）」の 5 段階で判定された。

図 3～5 中では、参加誌の間で特に記載の欠如や不足の多かった項目を★で示している。なお、4)および 5)の要件は、1)～3)のチェック項目と重複する部分があるため、図 6 中では具体的な項目の記載は割愛した。

1) Aims & Scope診断：
webサイト/ITAにジャーナルの目的と範囲が明記されているか（以下はチェック項目の一部を抜粋したもの）

- ジャーナルの特徴：
  - 発行頻度
  - 公開形態（PDF/HTML/冊子体）
  - 出版モデル（ゴールドOA/プラチナOA/ブロンズOA/購読型）
  - 取り扱う原稿種別（原著論文/レビュー/症例報告　等）
  - ★ ターンアラウンドタイム（投稿から出版までにかかる日数）
  - ★ 国際的な特徴や目的、所属する出版関係団体、等
- 品質：
  査読、独創性、倫理に関する記述
- ★ 研究分野トピック：
  ジャーナルおよびジャーナルの取り扱う研究分野に関連する3～5のキーワード
- アプローチ：
  研究の種類（例：臨床研究、基礎研究）
- ★ 目標：
  著者に投稿してもらう/読者に読んでもらうためのジャーナルの目標

図 3　Aims & Scope 診断の概要

2) ITA (Instruction to Authors、投稿規程)診断：
ITAに著者の知っておくべき情報が明記されているか（以下はチェック項目の一部を抜粋したもの）

- 著作権に関する方針：
  - 論文の著作権は発行機関に譲渡/著者が保持
  - ★ セルフアーカイビング…著者最終稿を他サイト（機関リポジトリ等）で公開することを認めていることの明記
- 論文の公正性に関する方針：
  - ★ 画像加工に関する規定
  - ★ プレプリント原稿の投稿を認めることの明記
  - ★ 剽窃チェックツールを利用していることの明記
- 倫理に関する方針：
  - 動物実験/臨床実験の報告義務
  - 利益相反の開示
  - ★ 倫理違反の可能性がある場合の対応方針
- 料金に関する規定：
  - APC/その他出版にかかる費用の明記
  - ★ ウェイバー…低所得国からの投稿に対しAPC等を免除する措置を取っていることの明記
- 編集・査読に関する規定：
  - 採択基準
  - 査読・編集フロー
  - ★ 編集委員会は発行母体の学協会と独立していることの明記
  - ★ ダークアーカイブ…現在論文を公開しているサイトが災害等により一時的に閉鎖した場合、バックアップを公開することの明記
- 原稿の準備：
  - 取り扱う原稿種別
  - 原稿の体裁

図 4　ITA 診断の概要

3) webサイト診断：
ジャーナルのwebサイトに以下の情報が掲載され、閲覧者がすぐにたどり着ける構成になっているか（以下はチェック項目の一部を抜粋したもの）

- ジャーナルについて：
  - Aims & Scope
  - ジャーナルのデータ（ISSN、巻・号）、J-STAGEへのリンク
  - ★ データベースへの収載状況
  - ★ ターンアラウンドタイム（投稿から出版までにかかる日数）
  - 連絡先
- 編集委員会：
  - ★ 編集委員長の挨拶
  - 編集委員会一覧（氏名および★所属）
- 倫理方針の概要：
  - ★ 研究倫理/出版倫理に関するポリシーやガイドラインの公開
- 出版にかかる費用
- 投稿・査読に関する案内：
  - ★ 査読プロセス
  - ★ 査読者へのガイド
  - ITA
  - 投稿審査システムへのリンク

図 5　web サイト診断の概要

4) PTBPSP (Principles of Transparency and Best Practice in Scholarly Publishing, 学術出版における透明性とベストプラクティスの原則)診断：
DOAJを含む学術出版関連団体において入会審査基準の一つとなっている同原則を満たしているか

- Principles of Transparency and Best Practice in Scholarly Publishing
  https://doaj.org/apply/transparency/
- 日本語版：
  https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub_bestPracticeInScholarlyPublishing.pdf

5) DOAJ診断：
DOAJの収載要件を満たしているか

- Complete list of application questions
  https://doaj.org/static/doaj/docs/2021-02-17-DOAJQuestions.pdf

※ 上記URLは2021年3月時点での最新版。2020年11月に回答項目が一部変更されており（収載基準に変更は無し）、ジャーナル診断を実施した当時は旧バージョンの項目にて診断を行った

図 6　PTBPSP 診断および DOAJ 診断の概要

3.2 改善活動

ジャーナル診断に基づき、それぞれの参加誌の ITA の欠如あるいは不十分な記載を補った改訂案（以下、標準投稿規程）を提供するとともに、各参加誌に改善策を提案した。参加誌は提供された標準投稿規程および改善策に基づき検討、改善を行った。主な改善活動について以下に示す。

○　各ジャーナルに共通の取組

- Aims & Scope の制定/改善
- ITA の改定：標準投稿規程を参考に DOAJ 収載を念頭に置いた不足項目の追記や不十分な記載の補強
- Web サイトの改善：ナビゲートしやすいレイアウトへの変更、改訂した Aims & Scope および ITA の公開、その他明示すべき情報の掲載

○　個別の取組項目の例

- ITA 改定に伴う各種書類（著作権譲渡同意書等）の更新
- 剽窃チェックツール（Similarity Check[3]）の導入
- CC ライセンスの選定・導入（コンサルティング開始当初 CC ライセンス未導入の場合のみ）

○　議論が起こった事例

標準投稿規程にて新たに追記を提案された項目に対し、参加誌の編集委員会等の検討の場において以下のような議論が起こった。（いずれも英文誌の事例）

- 査読プロセスが英文原稿と和文原稿で異なることについて
  これまで、英文原稿だけでなく、採択後に学会側で英訳を行うことを条件に和文原稿も受け入れてきたが、原稿の言語によって審査フローに差があることについて公平性の観点から問題があると INLEXIO から指摘された。これを受けて編集委員会で議論が起こり、最終的に、改訂後の ITA においては英文での投稿のみを受け付けることとなった。
- 投稿時におけるデータの提出について
  「論文で使ったデータセットの提出を投稿の条件とする」との草案に対し、他誌と比較して条件が厳しくなることで投稿数への影響を懸念する意見が編集委員から挙がった。これを受けて INLEXIO へ相談を行い、同社の助言に基づき「データセットは、査読中に要求があった場合、編集者や査読者が利用できるようにしなければならない」のように改めた。
- プレプリントサーバへの投稿について

---

[3] J-STAGE においては、Crossref DOI を利用している登載誌を対象に Similarity Check を提供している（2021 年 4 月現在）。利用申込方法等は下記ページにて確認できる。
https://www.jstage.jst.go.jp/static/pages/InformationForSocieties/TAB2/-char/ja

学術出版関係に詳しい編集委員からの意見を踏まえ、「投稿前または投稿と並行して、コミュニティが認めるプレプリントサーバへ原稿を投稿することを推奨する」と記載した。

- プレプリント論文の採択後の扱いについて
  編集委員の提案により、プレプリント論文を投稿する際は当該原稿がプレプリント論文であることを申告し、採択後はプレプリントサーバの論文に当雑誌の掲載論文の URL を表示することを推奨事項とした。
- CC ライセンス導入・選定について
  CC ライセンスに対する理解が深まっていない段階における編集委員からの声として、「CC ライセンスが付与された記事がどのように二次利用されるのか知りたい」、「著者の関心は改変可否の部分なので、具体的な改変の事例を知りたい」、「他学会のライセンス種別決定の経緯を知りたい」等が挙がった。
- ウェイバー（掲載費用免除）方針や剽窃チェックツールの導入については、複数のジャーナルにおいて、ITA の改定がきっかけとなり導入についての議論が起こった。

○　web サイトへの反映

DOAJ への収載申請時には、申請情報と相違の無い内容が明記されている web ページの URL を回答する必要がある。具体的に URL の提示を求められる項目は以下のとおりである。

- オープンアクセス誌であることの宣言（必須）
- 採用している CC ライセンスの種類（必須）
- 論文の著作権の所在（必須）
- 査読の種類（必須）
- 剽窃チェックを行っていること（該当する場合）
- Aims & Scope（必須）
- 編集委員会のリスト（必須）
- ITA（必須）
- 論文掲載料（必須）
- ウェイバーポリシーを採用していること（該当する場合）
- その他、論文の出版に関する料金が発生すること（該当する場合）
- ダークアーカイビング[4]を行っていること（該当する場合）

---

[4] J-STAGE では Portico によるダークアーカイブサービスを提供している。ダークアーカイビングを行うかどうかは J-STAGE 編集登載システムから設定できる。
・ダークアーカイビングの設定方法
https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/UM-01-005_sousa(service).pdf#page=21
・ダークアーカイビングを行っている J-STAGE 登載誌の一覧
https://www.portico.org/publishers/jstage/

・　著者のセルフアーカイビングを認めていること（該当する場合）

「(必須)」の項目は、明記していない、あるいは無回答の場合、申請が却下される。「(該当する場合)」の項目は、ジャーナルとして採用していない、あるいは定めていない場合には無回答でも容認される。また、これらの情報は同じページに掲載されていてもよいが、目次やハイパーリンク等、目的の情報へ容易にたどり着ける工夫が求められる。

上記の各種改善に向けた取り組みや、DOAJ 申請時に求められる内容の web サイトへの反映を実施した。また、J-STAGE の「この資料について」のページについてもジャーナル web サイト上での記載と相違が無いように更新を行った[5]。

3.3 再診断および DOAJ 申請

改善活動の完了後、DOAJ の収載要件を満たしていることを確認するために再診断を行った。その後、申請に必要な情報をリストにまとめ、参加誌と JST の間で誤りが無いか確認した。

収載申請は、DOAJ の web サイトにて申請・管理用のアカウントを取得し、ログイン後に専用フォームから申請を行う。申請内容は途中で下書きとして保存ができる他、同一のアカウントから複数のジャーナルを申請することも可能である。本コンサルティングにおいては事前に DOAJ へコンタクトを取り、JST のアカウントから参加誌の申請情報を代行入力することを予め連絡した上で、申請を行った。

アカウント取得の際に登録したメールアドレスには、申請が受け付けられた時、審査が開始された時、審査が完了し収載可否が決定した時に、それぞれ通知メールが届く。

3.4 収載完了後

DOAJ 収載後に各ジャーナルの発行機関が情報の維持管理を行うため、ジャーナルの管理権限を JST のアカウントからそれぞれの発行機関のアカウントへ委譲する作業を DOAJ へ依頼した。

今後ジャーナルの運営体制等に変更が生じた場合には、その都度 DOAJ のサイトへログインし、掲載情報の修正を依頼する必要がある。修正依頼は、DOAJ の編集委員会によって妥当なものか審議を経た上で反映される。

出版した記事のメタデータを DOAJ のサイト上で公開することも可能である。メタデータの公開は任意であり、希望する場合には DOAJ の定める形式の XML ファイルをジャーナル側で作成の上アップロードするか、もしくは 1 記事ずつメタデータをフォームから入力する必要がある。

---

[5] 「この資料について」の編集方法は下記ページにて確認できる。
https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/jstage_sousa(saitohenshu).pdf

4. まとめ

本コンサルティングへ参加したジャーナルは、分野や規模、編集委員会の体制等において多様であったが、ジャーナル診断の結果を見ると、欠如あるいは不足している項目がある程度共通していることが明らかになった（図 3〜5 の★印の項目）。この傾向は、今回参加したジャーナルのみならず、日本のジャーナル全体について当てはまるものと考えられる。

一部のジャーナルにおいてコンサルティング期間内に DOAJ 収載に至らなかったことについては、コロナ禍を背景とする学協会活動全体の停滞や所属機関の他業務の増加により、改善の検討や実作業が想定どおりに進まなかったことが原因として挙げられる。学会によっては、編集委員会や理事会の審議をオンラインやメールで実施することで策定プロセスを進めていったところもあり、そうした機動力の差も一因として考えられる。

また、改善活動と理事会等の審議のタイミングが噛み合わないことで時間のロスが生じたケースも見られたが、これについては 2021 年度以降のジャーナルコンサルティング実施にあたり改善すべき課題としたい。

DOAJ は OA 誌のホワイトリストとして国際的に認知されており、収載されることでジャーナルの運営体制に対する信頼度が高まると考えられる。運営体制を著者に信用してもらうことは、より多くの投稿を呼び込むことにつながり、質の高い論文を定期的に発行できるジャーナルへ発展するための基礎となる。J-STAGE 登載誌においては、ジャーナルの質向上の最初のマイルストーンとして、DOAJ への収載を検討していただきたい。

5. 参考資料

○ DOAJ 公式ホームページ
https://doaj.org/

○ DOAJ 収載基準
https://doaj.org/apply/guide/#additional-criteria-for-some-journal-types

○ DOAJ 申請項目一覧（pdf）注：申請は本 pdf の提出でなくフォームへの入力にて行う
https://doaj.org/static/doaj/docs/2021-02-17-DOAJQuestions.pdf

○ Principles of transparency and best practice in scholarly publishing
https://doaj.org/apply/transparency/

○ Principles of transparency and best practice in scholarly publishing 日本語版
https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub_bestPracticeInScholarlyPublishing.pdf

○ J-STAGE 登載ジャーナルのためのオープンアクセスガイド
https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub_openAccessGuide.pdf